

北海道商工業振興審議会 第1回 ものづくり産業振興部会 議 事 概 要

日時：平成25年8月9日(金) 13:30～15:30

場所：道特会館 5階 大会議室A

1 開 会

2 挨拶

○産業振興局長から挨拶

※事務局から、資料1に基づき、部会の説明並びに会議の成立及び公開についての報告

3 委員紹介

○事務局から委員及びオブザーバーの紹介

4 議 事

(1) 部会長の選任について

○株式会社日本政策投資銀行北海道支店長 関根 久修 委員を部会長に選任

(2) 「本道ものづくり産業振興の新たな展開方向」の検討について

ア 事務局から資料2、3、4及び参考資料の説明

イ 説明に対する質疑（◎委員又はオブザーバー、●道）

◎ 説明の中のものづくり産業とは製造業とイコールか。

今回の検討は地場企業の育成・振興をどうするかという意味か。企業立地論が入っていない。

● 今回のものづくり産業は産業分類上の製造業。

主眼は、道内企業の技術力アップや国内外含めて販路の開拓といった部分だが、産業集積を進める上で、誘致企業への参入を促進することによって、道内企業の技術力がアップすることもあるので、企業誘致も施策のツールとして考えている。

ウ 主な意見

- ◎ 若いから経験がないからという偏見を持たずに、仕事を任せる勇気も経営者として必要。
- ◎ 先代社長から「三安実行」、我々の商売はものを売るのではなく、「安全、安心、安価」を売ること。時代が物理的に変化しても、核心のところは変化しない。
- ◎ ISOを取得。製造業では製品さえきっちり作ればいいと思われるが、お客様との約束どおりデリバリーするまでが大切。お客様満足が企業が生き残っていけること。
- ◎ 瓶詰め機械が、日本製は台湾製の3倍。ステンレスの材質が日本の場合には良すぎる。韓国製やドイツ製と比較すると、日本製の機械が高め。品質を落とすことではなく、適材の材料を使うことも一つの考え。
- ◎ 道庁、経産局をはじめ、いろいろ手がけている中で、後はもう少しメリハリが必要ではないか。オンリーワンの技術で世界に向かっていく企業を応援することに力を入れては。
- ◎ 全国の企業と違うのは機械化に対する意識。パート一人減らすのに、どうしたら減らせられるかを真剣に議論している。北海道は安く品質のいいものを作ることに迫力が弱い。
- ◎ 食の北海道ブランドは高い。鮮度がいいことは、北海道の新鮮さをアピール出来、差別化もできる。高鮮度の流通を行政や研究機関も一緒になって考えたらどうか。
- ◎ 北海道としての夢を語ってもらいたい。技術力は間違いなく、関東、愛知は強烈でその差は認めざるを得ない。経営者が真剣に生き延びる術、オンリーワンの技術力をつけるにせよ、そういった思いになるような夢を持たせてもらいたい。
- ◎ 社員を募集してもなかなか集まらない。特に本州に比べ、女性が工場に来てくれない。若者も含め、道民にもものづくり現場のいいところをアピールすることや、教育機関との連携がより一層必要。
- ◎ 自社製品に対する評価の物差しが非常に甘い、自己中心的である。すばらしい製品でもあくまで北海道の条件の中で適合していて、一歩外に出ると意味をなさない。
- ◎ 世界で販売を伸ばしている会社は、懐が深く、すそ野も広く、外からでは目立たないが、実に地味な活動に人とお金をかけて取り組んでいる。実力の差を縮めるために、行政の後押しを集中的にメリハリをつけていただければ助かる。
- ◎ 日本は健康寿命、平均寿命が世界でトップ。おいしさ、素材の良さ、安全・安心、さらに健康効果を付加することで、消費者の購入意欲をプッシュすることが出来るので、今後のキーワードに健康は欠かすことは出来ない。
- ◎ 産業間連携により、産業間のニーズ・課題を市場ビジネスとして捉え、道内はもとより、道外・海外に発展していく第2、第3の企業を集積していくために、機能や資源を集中する取組をこの4年間でやってみてはどうか。
- ◎ 研究開発を通じて、夢のある技術などのお手伝いをしていきたい。
- ◎ どういう人材を育成するかは社会のニーズがある。
- ◎ いろいろな技術はプライベートなコミュニケーションから生まれるが、道内は情報交換の手段が弱いと感じる。情報交換できるきっかけや場をたくさんつくる施策も必要。

- ◎ 成長戦略の柱でもある女性の活躍の場を広げることが必要。ものづくりの底辺、プレーヤーを増やすために企業誘致や創業を増やすことも必要。今年度は意識して取り組んでいくので、道庁はじめ関係機関と連携してやっていきたい。
- ◎ 雇用環境は回復してきているが求人の半数は非正規の求人。人を育てる、技術の継承の面で、非正規雇用は難しいと思われる。労働人口縮小の中、女性の活用や非正規職員のパフォーマンスを上げることが必要。

(3) その他

○事務局から次回の予定について説明

5 閉 会

出 席 者

【委員】

井原水産株式会社	代表取締役社長	井 原	慶 児	委員
室蘭工業大学	地域共同研究開発センター長	鴨 田	秀 一	委員
株式会社ニッコー	代表取締役	佐 藤	厚	委員
株式会社日本政策投資銀行	北海道支店長	関 根	久 修	委員
株式会社土谷製作所	代表取締役社長	土 谷	敏 行	委員
日詰工業株式会社	代表取締役	日 詰	良 子	委員

(五十音順)

【オブザーバー】

一般社団法人 北海道機械工業会	企画室長	成 田	勤
一般社団法人 北海道農業機械工業会	専務理事	原	令 幸
一般社団法人 北海道バイオ工業会	事業企画・運営委員	村 上	季 隆
公益財団法人 北海道中小企業総合支援センター	常務理事	野 原	直 彦
地方独立行政法人 北海道総合研究機構	産業技術研究本部		
ものづくり支援センター	工業技術支援グループ 研究主幹	畑 沢	賢 一
独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構			
北海道職業能力開発大学校	校 長	前 田	康 二
経済産業省 北海道経済産業局地域経済部	地域経済課長	高 橋	毅
厚生労働省 北海道労働局職業安定部	求職者支援室長	志 村	和 信

(敬称略)